

2022年度事業のハイライト(事務局まとめ)

2022年12月、2年間に及ぶ延期の末、生物多様性条約第15回締約国会議が開催され、昆明モンテリオール生物多様性世界枠組み(GBF)が採択された。GBF(交渉時は、ポスト2020枠組みと呼称)の交渉と同時変更で、環境省が旗振り役となって検討された「生物多様性国家戦略2023-2030」が年度末に閣議決定がされた。両プロセスに深くかかわったIUCN-Jにとっても、非常に忙しかつ、実りの多い1年であった。

主要成果1 ポスト2020枠組み検討プロセスの情報収集と成果発信

生物多様性条約の全交渉会合に参画し、事前の準備会合、事後の報告会等の開催も精力的に行いました。メディアへの発信にも力をいれ、メンバーである日本自然保護協会とWWFジャパンによる事前メディアレクや、会議期間中のほぼ連日に及ぶ記者ブリーフィングを実施した。IUCNメンバーの中では、環境省・経団連自然保護協議会・生物多様性わかものネットワーク(IUCN-Jと共同展示)・CONDがCOP15期間中の展示にも力を入れていた。

企業や金融機関向けの発信にも尽力し、経団連自然保護協議会やアースデイエブリデイなどの協力を受けた、事前・期中・事後の生物多様性条約関連情報の発信により、多様な関係者との信頼構築につながった。事後の報告では、IUCN-J主催の会だけでなく、メンバー主催の報告会も数多く行われた。

主要成果2 生物多様性国家戦略への寄与

ポスト2020枠組み交渉や、関係する情報収集や検討機会なども活用しながら、次期生物多様性国家戦略を考えるフォーラム(NBSAPフォーラム)2022をIUCN-Jメンバーと分担しながら開催しました。計、11テーマ、16回、のべ1339名の参加となる。

IUCN-Jメンバーからは、多様なセクターへの主流化、とりわけ、企業や金融による生物多様性関連の取組の拡大、ライフスタイルの転換、生物多様性育む農業の推進、保護地域とOECM両面での30by30の強化、気候変動対策による生物多様性への悪影響の回避と自然に根差した解決策(Nature Based Solutions)の推進による同時解決などを提言し、第6次戦略の基本戦略含む各所に活かされた。

主要成果3 ユース支援と連携

国際経験継承事業として、ユースや若手に対するより体系的な事前情報や関係者との交流、期間中の現地でのレクチャー、事後報告の機会創出を行い、全体振り返りの機会も設けて、その有効性を確認した。このプログラムの中で整理した国際会議への参加のための基礎知識などは、IUCN-Jメンバーに留まらず、筑波大学大学院自然保護寄付講座の受講生、COP15に参加を計画した企業の方にも活用された。IUCNユース戦略の策定も受け、IUCN-J内でのユース戦略の策定も始まった。

主要成果4 規約改正後の組織拡大

2022年1月に確認された規約改正により、サポート会員・ユース会員制度が創設され、運用が始まった。6団体の入会が行われ、IUCN-Jのネットワークが持つ専門性の範囲も多様化が進むなど、大事な前進が見られた。ウェブサイトのリニューアルも実施し、また、事務局体制の強化

の観点から、収入源の多様化と拡大を進めるため、オンライン寄付決済システムを導入し、今後の本格運用に向けた準備ができた。

1. 事業報告

1.1. IUCNのビジョン・ミッションに共感し、活動する団体・個人の増加

1.1.1 IUCN-Jサポーター制度の運用

- ・ IUCN-Jへの入会に関する資料や入会の流れを作成し、また、関係の深い団体等に参加を呼びかけ、入会が進んだ。今年度の入会団体として
 - 正会員：日本ワシタカ研究センター
 - サポーター会員：日本自然環境専門学校、食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク、アースデイ東京、日本環境教育フォーラム
 - ユース会員：生物多様性わかものネットワーク、Change Our Next Decade (COND)の参加があった。

- ・ また、IUCNの専門委員会が関わってまとめたレポートを基に、これからの自然保護NGOの在り方について考える勉強会を、7月15日に実施し、自然保護団体の今後の伸びしろを意見交換した。

1.1.2 ユース参画の促進

- ・ 第2回アジア公園会議（2022年5月マレーシア）に対し、小林海瑠（生物多様性わかものネット）を派遣。
- ・ 第4回ポスト2020枠組み作業部会（2022年6月ケニア）に対し、吉川愛梨沙（生物多様性わかものネット）、高田健司（COND）を派遣。
- ・ 生物多様性条約COP15に対し、安家叶子（野生生物保全論研究会）、鈴木和子（生物多様性わかものネット）、芝崎瑞穂（COND）を派遣。筑波大学自然保護寄付講座より、松本・Ragini2名のインターンを受け入れつつ、COP15への参加を行った。
- ・ ラムサール条約COP14に対し、加々美薫（生物多様性わかものネット）、平野叶大（NPO法人ラムサールネットワーク日本）を派遣。
- ・ これらの派遣にあたり、助成金のほか、UNDB-支援事業寄付金、J-GBF支援事業寄付金活用事業として一部実施した。

- ・ IUCN-Jのユースとの協働について検討を進めた。
- ・ そのために、IUCNのユース戦略を仮訳
- ・ ユース戦略策定方針案を作成し、会員に募集し、策定メンバー（安藤、名取、道家、矢動丸、稲場）と共に、意見交換等を行った。
- ・ 生物多様性ユースサミットについて検討した。ユースサミットの可能性についてGYBNコーディネーターとCOP15期間中に相談。国内のユースNGOやGYBNとパートナーシップ団体の整理（GYBNジャパンの在り方）について検討した。引き続き、日本開催の可能性や、その場合の協力体制について検討を進めていく。

1.1.3 発信の強化・組織基盤の強化

- ・ IUCN親善大使プログラムの事務局本部の取組みが終了することになったため、イルカさんの親善大使プログラムについて、日本への主導変更を実施した
- ・ 8月28日にイルカ親善大使コンサートが開かれ、展示を行った。
- ・ IUCN-Jウェブサイトのリニューアル作業を実施した（公開は4月25日）
- ・ 今後の寄付受け入れ態勢を整備するため、Congrantという寄付決済制度を導入した。継続支援者2名のご支援を得られた（年度末時点）。

1.2. 会員間および海外・他セクターとの交わりの場（プラットフォーム）の創出・増加

1.2.1. にじゅうまるプロジェクト後継検討

IUCN-J会員団体を中心に、日本の市民・団体が愛知ターゲット実現に向けて活動できるよう、

- ①国際情報も含む情報を収集・提供し、
- ②目標への取り組みを動機づけし、
- ③効果的な活動を提案し、
- ④個別目標毎のネットワーク化を推進し、
- ⑤目標達成状況を評価する場の設定に貢献する。

これらの諸目的を達成する事業「にじゅうまるプロジェクト」の後継を模索する勉強会等を開催した

- ・ 07.15 これからの自然保護NGO 15の未来像
- ・ 08.04 にじゅうまるプロジェクト後継を考える勉強会
- ・ 09.08 日本版ネイチャーポジティブ金融を考える等を開催。

また、IUCN リーダーズフォーラムへのオンライン参加を支援した。IUCNネイチャーポジティブアプローチや、気候変動枠組み条約で話題となった適切なネットゼロ宣言の質を確保するための国連事務総長レポートなどの概要をまとめ、共有するなど、情報交換をはかった。

11月24日運営委員会など、会員会合での意見交換を実施した。

1.2.2. 会員間での報告会や意見交換会の実施

オンライン会議などを活用し、IUCNやCBD関係者等との、IUCN会員と専門委員会との意見交換や懇親の機会を設定した。

オンラインイベントの開催

- ・ 03.18 持続可能な漁業とシーフード 参加者数：81人 企画運営（認定NPO法人）野生生物保全論研究会 <https://youtu.be/kkKQTafcbRk>
- ・ 04.20 自然とともに～ネイチャーポジティブな農業への変革をめざして 参加者数：85名 運営：ラムサールネットワーク日本
- ・ 04.27 ポスト2020枠組み最終会合報告会 参加者数：110名 運営：IUCN-J事務局
- ・ 05.12 次世代の海を多様性溢れる場所へ～海洋生物多様性保全を多角的な環境問題から考える～ 参加者数：85名 運営：COND
- ・ 07.03 ポスト2020生物多様性枠組の議論から考えるビジネスにおける〈ネイチャーポジティブ〉 参加者数：36名 運営：アースデイ・エブリデイ
- ・ 07.26 ポスト2020枠組み交渉報告会 参加者数：104名 運営：IUCN-J事務局
- ・ 10.03 IUCNレッドリストの歴史から、これからの種の保全を考える 参加者数：68名 運営：IUCN-J事務局、大正大学、IUCNリエゾンオフィス
- ・ 11.02 気候変動と生物多様性連続ウェビナー第1回
- ・ 11.09 気候変動と生物多様性連続ウェビナー第2回
- ・ 11.10 気候変動と生物多様性連続ウェビナー第3回
- ・ 11.16 気候変動と生物多様性連続ウェビナー第4回
- ・ 11.17 気候変動と生物多様性連続ウェビナー第5回
- ・ 11.18 気候変動と生物多様性連続ウェビナー第6回
- ・ 11.15 政策変革の機会 生物多様性条約COP15 参加者200名 運営：IUCN-J事務局
- ・ 11.25 動き出した2030Nature Positive Economy 生物多様性条約COP15 参加者265名（オンライン）50名（対面） 運営：アースデイ・エブリデイ
- ・ 01.06 生物多様性条約COP15の成果（GBF）について
- ・ 02.02 ネイチャーポジティブ時代の始まりー生物多様性条約COP15報告 参加者数：280名 運営：IUCN-J事務局

意見交換等の開催

- ・ 10月24日 GYBNメリーナ・サキヤマさんとの意見交換
- ・ 10月28日 CBD事務局との情報交換
- ・ 11月10日 シンケビチュウス欧州委員（環境・海事・漁業担当）との意見交換
- ・ 毎週水曜日に、CBD事務局が主催する生物多様性国際広報戦略会議（オンライン開催：Biodiversity Frontline Call）に出席し、広報含めた、生物多様性の最新のキャンペーン等の動きを関心のあるメンバー間で共有した。
- ・ 収集した国際情報の共有として、IUCNネイチャーポジティブアプローチ、ネットゼロ社会に関する国連事務総長提言（COP27発表）、GBF23目標の交渉プロセスのフォローアップ方法（都市緑地・親水地域の拡張に関する目標12を見本に）

1.2.3. アジアや日中韓IUCN会員との連携を構築する

星野IUCN理事と共に、中国・韓国を入れたメーリングリストを作成し、日本主導でIUCN日中韓三加国意見交換会に向けた企画調整を行い、第4回日中韓意見交換会を開催した（11月22日）

1.2.4. 国立環境研究所との協働

国立環境研究所との覚書を活かし、ポスト2020枠組みの検討も含めた、研究分野とNGOとをつなぐ取組を実施する。IUCNメンバーと国立環境研究所の情報交換や、COP15以降を見据えた生物多様性の定量評価の検討などが行われた。

1.3. 生物多様性に関する国際枠組みや、生物多様性を超えた持続可能な開発に関する国際枠組みなどに対し、IUCN-J会員からの関与を高める

1.3.1. 国際会議などへの参加を通じた、国際的情報収集・情報発信の実施

下記の国際会議の機会を活用し、
第2回アジア公園会議（5月コタキナバル）
第4回ポスト2020枠組み作業部会（6月ナイロビ）
第14回ラムサール条約締約国会議（11月ジュネーブ）
第15回生物多様性条約締約国会合（12月モンテリオール）
その他の会合として、IUCNリーダーズフォーラム（9月）へのオンライン参加の支援を行った。

上記会合に対して、国際条約メンター制度の試行を行った。

国際会議の前後あるいは開催中などに、IUCN内の国際会議の専門的ノウハウを、IUCN内の会員団体若手（or担い手）職員にオンラインセミナー等を通じ、継承する。プレゼンや動画などの素材を作り上げた。オンラインセミナーは、COP15参加予定の自治体や企業、大学生等も参加できる形で実施し、高く評価された。

ユースの参画促進を通じ、ユースの提言機会を増やすと同時に、生物多様性条約や生物多様性国家戦略検討プロセスに、ユースが関われるよう働きかける
収集結果のじゅうまる後継WEBサイトでの発信を行った

<第2回アジア公園会議>

- ・ 派遣者：生物多様性わかものネットワーク小林海瑠氏

- ・ 準備：準備会を実施（5月19日）。また、アジア公園会議フォローアップ会合を開催（主催：Change Our Next Decade、コンサーベーションインターナショナル、東京大学森林風致計画学研究室）

<第4回ポスト2020枠組み作業部会>

- ・ 派遣者：IUCN-J道家哲平（メンター）、アースデイエブリデイ宮本育昌（メンター）、COND高田健司（メンティー）、生物多様性わかものネットワーク吉川愛梨沙（メンティー）
- ・ 準備：第4回ポスト2020枠組み作業部会の準備会を開催（6月10日）
- ・ 「国際経験継承事業 第4回ポスト2020枠組み作業部会編」として、成果をまとめた。
- ・ にじゅうまるWEBサイトでのブログ発信
第4回ポスト2020枠組み作業部会：計19件（うちユースレポート7件）。報告会を7月26日実施（再掲）

<IUCN Leaders Forum>

- ・ オンライン参加補助を、EDE, CIJ, RNJ, COND, JYBNの5団体5名に行った。

<ラムサール条約COP14>

- ・ 派遣者（メンティー）：ラムサールネットワーク日本・加々美薫氏、生物多様性わかものネットワーク・平野叶大氏
- ・ ラムサールネットワーク日本がメンターとなり、事前・期中・事後報告会の機会を設定しIUCNを学ぶミニ勉強会ーラムサールCOP14での継承事業一環として（10月20日）
- ・ また、ラムサール条約COP14期間中に、IUCN本部への表敬訪問を行った。

<生物多様性条約第15回締約国会議および第5回ポスト2020枠組み作業部会>

- ・ 派遣者：日本自然保護協会道家（メンター）、アースデイエブリデイ宮本育昌（メメンター）、野生生物保全論研究会安家叶子（メンティー）、生物多様性わかものネットワーク鈴木和子（メンティー）、芝崎瑞穂（メンティー）、松本季海芳（IUCN-Jインターン）、Rhagini Sarma（IUCN-Jインターン）
- ・ 準備：
- ・ COP15に向けたランチレク 第1回「生物多様性条約COP15の意義」（9月15日）
- ・ COP15に向けたランチレク 第2回「生物多様性条約を学ぶ」（9月20日）
- ・ COP15に向けたランチレク 第3回「ポスト2020枠組みとCOP15」（10月13日）
- ・ COP15に向けたランチレク 第4回「ポスト2020枠組みにまつわるキーワード」（10月21日）
- ・ 生物多様性世界ユースネットワーク（GYBN）メリーナさんとの情報交換（10月24日）
- ・ COP15に向けたCBD事務局との情報交換（10月28日）
- ・ COP15に向けたランチレク 第5回「CBD公式ウェブサイトの見方とMYポジションペーパーの発表」（11月21日）
- ・ COP15参加予定者の対面交流機会を開催（11月25日・再掲）
- ・ 第5回ポスト2020枠組み作業部会・第15回締約国会議に派遣
- ・ にじゅうまるWEBサイトでのブログ発信
第5回ポスト2020枠組み作業部会・第15回生物多様性条約締約国会議：計32件（うちユースレポート3件）
- ・ 国際継承事業報告会を開催。
- ・ また、2022年度の国際会議を通じた「国際経験継承事業 COP15編」として成果をまとめた

1. 3. 2. 生物多様性条約事務局とのMoU(2011. 12月署名)を通じた国際情報発信の実施
 - ・ CBD-COP15におけるイベントの開催や展示の検討と実施
 - ・ COP15期間中の情報発信として、生物多様性わかものネットワークとの共同展示を行い、ラムサールネットワーク日本や国立環境研究所の資料等を設置した。
 - ・ また、J-GBFと環境省主催のCEPAフェアサイドイベントの運営補助（記録、発表等）も行った。

4. 3. 3. ポスト2020を受けた市民戦略作り

生物多様性国家戦略を考えるフォーラム2022を、生物多様性国家戦略を策定まで開催し、ポスト2020枠組みの交渉も踏まえつつ、多様なテーマでオンラインイベント（Zoomウェビナー）を開催した。（再掲）

これらの結果を踏まえ、3月13日に戦略ワークショップをオンラインワークショップ形式で開催し、合意された昆明モントリオール生物多様性世界枠組み（旧称ポスト2020枠組み）を含め、生物多様性に関する国際枠組みへの深い理解と、日本における目標達成（生物多様性国家戦略への働きかけ、企業等とのパートナーシップ含む）や、参加促進、および、IUCN-Jの在り方について考える場を作った。

団体としての報告

1. 加盟団体

2023年3月31日段階で、国際自然保護連合(IUCN)に加盟している日本の団体は、国家会員1(外務省)、政府機関会員1(環境省)、非政府組織16の計18団体となりました。

IUCN日本委員会(IUCN-J)加盟団体においては、本部がIUCN加盟団体となっている2団体・準会員/サポート会員7団体、ユース会員1団体を合計し、計28団体となります。

2. 会議開催

IUCN-Jの会員団体・協力団体を中心に行った会合は下記の通り。

運営委員会：11/24、03/02

会員総会や会員会合：04/08、06/09、03/23

3. 外部委員会等への参加

- ・ J-GBFへの参画

委員会(2月28日)、幹事会(12月1日)、行動変容WG(3月28日)

担当：道家哲平(日本自然保護協会・IUCN-J事務局長 以下肩書き略)

6. 主催・共催・後援・推薦事業

2022年度、IUCN-J主催・共催・後援等を行った取り組みは表1の通り。

表1 主催・共催・後援事業

主催／共催等 事業			
No	日付	事業名	種別(主催／共催)
1	03/18	持続可能な漁業とシーフード	共催
2	04/20	自然とともに～ネイチャーポジティブな農業への変革をめざして	共催
3	04/27	ポスト2020枠組み最終会合報告会	主催
4	05/12	次世代の海を多様性溢れる場所へ～海洋生物多様性保全を多角的な環境問題から考える～	共催
5	07.03	ポスト2020生物多様性枠組の議論から考えるビジネスにおける〈ネイチャーポジティブ〉	共催
6	07/26	ポスト2020枠組み交渉報告会	主催
7	10/03	IUCNレッドリストの歴史から、これからの種の保全を考える	主催
8	11/02	気候変動と生物多様性連続ウェビナー第1回	共催
9	11/09	気候変動と生物多様性連続ウェビナー第2回	共催
10	11/10	気候変動と生物多様性連続ウェビナー第3回	共催
11	11/16	気候変動と生物多様性連続ウェビナー第4回	共催

12	11/17	気候変動と生物多様性連続ウェビナー第5回	共催
13	11/18	気候変動と生物多様性連続ウェビナー第6回	共催
14	11/15	政策変革の機会 生物多様性条約COP15	主催
15	11/25	動き出した2030 Nature Positive Economy 生物多様性条約COP15	主催
16	01/06	生物多様性条約COP15の成果（GBF）について	主催
17	02/02	ネイチャーポジティブ時代の始まりー生物多様性条約COP15報告	主催
後援/推薦事業			(主催)
1		湿地のグリーンウェーブ2023	ラムサールネットワーク日本

7. 謝辞

国際自然保護連合日本委員会の事業の運営にあたり、下記企業より、ご寄付をいただきました。また、ネイルアーティストChicco様はじめ、個人でも継続的なご支援をくださる皆様に、感謝申し上げます。

株式会社 良品計画
 株式会社 シール堂
 株式会社 ワコール
 株式会社 トリナス